



3年学年だより

発行日：平成 31 年 3 月 5 日 (火)

発行者：横浜市立南高等学校附属中学校

校長：磯部 修一 NO. 10

平成 30 年度の有終の美を求めて

今月は南高校附属中学校 8 期生適性検査、南高校 66 期生高校入試が実施されました。南高校および附属中学校にも新しい春の足音が聞こえてきます。平成 30 年度の附属中学校の生活も残りひと月となりました。今年度の総仕上げをしている各学年の様子をお伝えします。

保護者の皆さま、1 年間さまざまな場面でお力添えいただきありがとうございました。平成 30 年度も残りひと月、よろしく願いいたします。

ここからが本当の学びのスタート

3 年学年主任 蛭田 真生

先日、皆さんの提出した卒業論文を少し読ませていただきました。リニアモーターカーについて学ぶために名古屋の鉄道館や山梨の実験線に出かけたり、児童労働について学ぶために NGO のイベントに参加したり、一人ひとりが自分の決めた研究テーマと向き合い、真剣に研究に取り組んだことが伝わってきて、とても嬉しい気持ちになりました。研究の進め方や論文のまとめ方には、まだまだ拙いところもあります。しかし、自ら問題を見だし、課題を解決する方法を考え、問題解決にチャレンジしたこの経験は、今後の人生の様々な場面で活きるでしょう。

9 年間の義務教育を終えたここからが本当の学びのスタートです。小学校、中学校で育んだ自ら学びに向かう力を高校でさらに伸ばし、学ぶことの楽しさを伝えられる大人になっていってください。

5 期生のみんな、いよいよ中学校卒業ですね。これまで自分を支えてくれたすべての人への感謝の気持ち、そして新たな出会いへの期待を胸に、3 月 22 日、立派に卒業式を迎えよう！

LET'S GROW WITH FAMILY

2 年学年主任 梶ヶ谷 朋恵

今年の学年として最大の行事、イングリッシュキャンプを終えて、2 学年のフロアには、Let's grow with family の文字が入った横断幕が長いあいだ掲げられていました。1 年生の時から、「3 年生になる頃には素敵な家族のような集団になれたらいいね」と集会などの学年主任の話のときに、語っていたことと関係あるかどうかは不明ですが、2 年生のイングリッシュキャンプはこの言葉を合言葉に、大成功に終わることができました。家族という言葉には、個人個人さまざまなイメージがあると思いますが、私が思っている家族のような学年というのは、一朝一夕で出来上がるものではありません。時に優しく、時に厳しく、違いを受け入れ、互いを尊重し、個人個人の関わりの強さに違いがあっても、常に全体への思いを忘れない、あたたかな関係。

そんな学年を 3 年間かけて作ってほしいと願っています。そのためには、お互いをよく知るためにぶつかり合う場面も、近づきすぎたり離れすぎたりしながら、距離感を測る場面も必要です。6 期生の 2 年目を振り返って、皆さんはどんな 1 年だったと思いますか？来年も Let's grow with family!!

優しく、しなやかな心で

1 年学年主任 朝比奈 康江

7 期生が入学して一年、また新しい季節がめぐってきました。さまざまな小学校から集まり、仲間づくりからスタートした中学校生活でした。広い敷地、大きな校舎、恵まれた施設。行事や部活動などでは、中学生だけでなく高校生の先輩の活躍も身近で感じ、それまでとは違ったためまぐるしい日々だったと思います。

その中で、みなさんは、人の意見を素直に受け止め、互いの個性を認め合える優しい集団になりました。

相田みつをさんの詩に「木の芽がのびるのは やわらかいから 若葉がひろがるのは やわらかいから かな風にも竹がそよぐのは 竹がやわらかいから 『やわらかい心』とあります。優しさ、しなやかさは強さです。4 月に入学してくる 8 期生に、行動でそれを示せる先輩になってください。

これからも、やわらかい心でたくさんの方のことを吸収し、成長していってくれることを信じています。

EGG ゼミ「卒業論文」の振り返り

3年間で培った課題発見・解決能力、論理的思考力と様々なスキルを活用し、晴れて5期生の卒業論文が完成しました。

ここに至るまでの長い道のり、常に順風満帆にいくときばかりではなく、いくつもの壁にぶち当たりながらも模索を繰り返し、壁を乗り越え、ゴールに辿り着きました。その想いをお届けします。



卒論を書き終えて . . .

1組

私は『運動の学習成果への影響とその活用について』というテーマで卒業論文を書きました。春にテーマを決めた後に言葉の定義づけと実験をして、結果から考察をしました。

私はこの卒業論文を書く中で、計画を立てることの大切さを改めて知ることができました。私は卒業論文の計画書にあたるものは章立てだと思います。そこで、章立てを書くときには最初と最後の章がしっかりとつながっているか、その他の章でまとめることが、最後の提案とどのように関連しているのか、ということに注意し、それらのことを見やすいように一枚にまとめました。その後の調べ学習や実験をその紙をもとに行ったことで、最初に考えていた全体の構成から大きくずれることなく卒業論文を完成させることができました。

これからの学校生活でもたくさんの課題があると思いますが、卒業論文を書く中で得たことを使って全力で頑張ろうと思います。

1組

私の研究テーマは『世界中の人が生涯笑いのある暮らしをするには？～教室を社会の縮図として考える～』であった。観察や実態調査から教室における笑いの質を高める方法を考察し、世界を幸せにする笑いについて自分の意見を述べた。また、日々の笑いを良くするために中学生でもできる手立てを提案した。至らない点もあったが、中学生ならではの視点と自由な発想力を活かし、実りあるものにできたと感じている。執筆は大変だったが、それだけに得られた達成感は大きかった。執筆の過程では、アンケートの取り方、資料の整理、語句の意味の分析、パソコンの操作等ばらばらに学んできたことが一本の線で結ばれていくような感覚があった。3年間のEGGや教科の学びには確かな意味があったのだと改めて実感しました。

自分の可能性の線を限りなく伸ばしていくために、高校生になってもあらゆる事柄に関心を持ち、貪欲に取り組みたいです。

2組

卒業研究を進めている間は、困ったことや迷ったことだらけだった。そんな中で、今置かれている状況をどうすれば打破できるか考えて最終的には研究のゴールまで辿り着くことができた。卒業研究を通して、課題解決のコツを掴むことができたと思っている。

自分の論文は予測に関するものだったが、予測の的中率について論述する際になかなか基準が揃わず比較できないという苦難があった。様々な方法を考え悩んだ末、基準を揃えた指標を作ることにした。ただ、苦労はこれで終わらなかった。指標を作るにしても、どうすれば基準が揃うかを考えつつ計算は複雑にしない、この二つの間で折り合いをつけるのにかなりの時間を要した。そうして困難を打破できたのは、論文を完成させた大きな要因だと思う。課題と向き合う力、そして課題解決のための行動力を研究によって身につけられた。

苦しい状況に置かれたときに、怯んだり後戻りしてしまう。ただ、それは卒業研究を始める前の話。このような状況は、課題と向き合い、積極的な行動をとれば打破できる。それを知れたのは、卒業研究における最大の成果だったのだと思う。

2組

私は卒業論文の執筆を通して数多くの学びを得ることができた。

一つ目は、壁にぶつかり行き詰っても、向き合い続けるある程度の精神力だ。今までと違い、避けることができないうために、何度も心が折れそうになったが、少し時間をおいてみたりすることで、乗り越えることができた。

二つ目に、長期スパンで取り組む事柄の計画性だ。1週間後までに、テスト前までに、といった今までとは違い、1年間かけて取り組む課題は計画的に進めなければならないとわかった。これは今回の反省からの学びであるが故に、これから確実にいかせると思う。

三つ目に、かつてないほどに大きな達成感だ。最後の一文を書き終えて力強くエンターキーを押したときの感覚は忘れられない。書き終えられた経験は今後自信となって、自分の役に立ってくれるだろう。

もちろんこれらに加え、論文や、論文的な構成など、書く力もついた。反省点も多いが、中学校で卒業論文を執筆する貴重な経験から得た学びは多く、少し経った今は、やってよかったと思う。



3組

2月、附属中生は入試休みだと騒いでいた頃、僕は卒業論文の執筆に追われる日々を送っていた。遊びたい、正直執筆などやりたくない、何故この時間に提出なのだ、多少の怒りがあった。しかし、4月のテーマ設定から始まり様々な文献やホームページを見て研究し続けた自分を振り返って、今まで頑張ってきたのだからやり切ろうと思い、最大限の集中力を注いで執筆をした。すると、表や図、グラフが多かったせいなのか46ページにも渡る論文に仕上がった。5期生みんなの論文には、人によってそれぞれ異なる思いが込められていると僕は思う。

僕の研究テーマは、『天気予報を通して、自然災害を防ぐことは可能なのか』である。異常気象が近年僕たちの生活において身近になっており、それによる自然災害は年々増加している。今後自然災害が起こらぬようにするために、僕は進化しつつある天気予報が重要になってくると考えた。様々な文献やホームページを見て研究し、沢山の情報を入手できた。さらに、夏休み中は横浜地方気象台を訪問した。ただ、自分の目当てだったことができず、目的は達成されなかった。研究は成功も失敗もあるのだと、僕はしみじみと感じた。こうして仕上がる論文には、重みがある。まさに、卒業論文だと思った。そして、書き終えたときは達成感があった。中学3年間のEGGで、僕たちは卒業論文を通じて切磋琢磨してきた。テーマ設定のときから、お互いの成果を共有し合い、秋には中学校と高等学校の先生からアドバイスをいただくことができた。それゆえの論文だと僕は思う。

この1年間を通した卒業論文の活動は、僕にとって大きな価値である。この活動が今後の学習に生かしていけると、僕は考える。だから、これからも忘れずに生かして生きたいと思う。

3組

私たちは1年間、EGGの授業の中で卒業論文に取り組んできた。2年生のときに執筆したミニ論文よりもはるかに大変で、投げ出したくなる時が多々あった。

最も苦労したのは章立て、目次を考えたことだ。今まで「調べ学習」しかしてこなかったもので、どう自分の提案へ導くのかを考えるのは想像以上にハードだった。



最も反省しているのは、夏休みの使い方だ。夏休みにどれだけ情報収集できるかでその後の進捗状況に差が生まれる。私の場合、夏休みはほとんど卒業論文に手をつけなかったため、当初予定していたインタビューができなくなってしまった。

これまでに挙げた他にも、まだまだ大変だったことや反省すべきことはいくつもあるが、終わってから振り返ってみると、良い経験になったと思う。卒業論文のテーマは自由なので、自分の興味があるテーマについて、楽しく計画的に取り組んでほしいと思う。

4組

1年生や2年生のとき、3年生でやる卒業論文に対して心配や不安のイメージを多く持っていました。テーマ決めなどから不安ばかりでした。しかし、3年生になり、実際に取り組むとその不安は少しずつ和らいでいきました。自分の好きなことや気になることに対して自由に調べることができました。自分の好きなことに対して調べると意欲がわき進みました。卒業論文の執筆をして僕はいくつかのことを学びました。学んだことの一つ目は計画性の大切さです。卒業論文は一年を通して行う EGG 活動のため、どの月も力を抜かずに取り組む必要がありました。特に資料集めは早い段階から行う必要があったのですが、僕はしっかり行わなかったので最後に苦労しました。

二つ目に学んだことは、説得力のある文章を書くことです。卒業論文では資料をもとに説得力のある文章を書くことが大切でした。資料をもとに書くことは難しかったですが、2年生で行ったことや1年生で行ったことをもとに説得力のある文章を書くことができました。

3年間の EGG の集大成の卒業論文を完成させることができよかったです。

4組

今回の卒業論文作成において「伝わりやすい文章を書く」ということや「図やグラフを効果的に使う」ということに注意をした。そしてこれからの力を伸ばすことができ、またコツコツと課題をやり進めることの重要性について改めて感じる事ができた。

1年生の頃から卒業論文提出のことは知らされていて、当時からの課題に対してはあまり良い印象を持っていなかった。それと同時に「早いうちから書いておかなければならない」という危機感も持ち合わせていた。だが、実際のところなかなか思うように進まず、期日ギリギリまで苦労することになり、とても大変だった。

このように卒業論文にはとても苦労させられ、精神を蝕まれるような日々を送った。そんな中でも、自分の思うように書き進められた時の嬉しさや終わった時の達成感は筆舌に尽くしがたいものがあった。

卒業論文作成は決して楽なものではなかったが、良い経験になったと思う。

道徳「THANK YOU」ありがとうを伝えようカード作成 ～感謝～

4日(月)6校時の道徳では、「友人のよさやがんばりを見つけ合い、素直に気持ちを伝える活動」として、一年間クラスで活動してきたクラスメイトに感謝の気持ちをメッセージカードに書き、その気持ちを声に出して交換する授業が行われました。

それぞれが何枚ものカードに心を込めて書いていました。



★卒業研究報告会のお知らせ

3月9日(土) 9:30~11:30まで4階2年生の教室および、5階3年生の教室にて、EGG卒業研究報告会を行います。1年間かけて取り組んだ卒業研究を、来年度取り組む2年生に向けて一人ずつ発表します。3年間のEGG学習の集大成でもあります。どうぞご参観ください。

また、当日は13:00より、1時間程度の各クラスでの懇親会も予定されています。

★南高校入学予定者保護者説明会のお知らせ

3月6日(水) 14:00から南高ホールにて、南高校入学予定者保護者説明会を行います。「新入生のしおり」をお持ちください。また、2月に封筒にてお渡しした複数の提出書類のご協力ありがとうございました。